

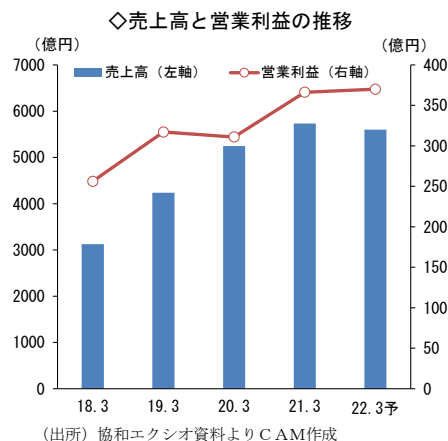
# 企業ニュース 協和エクシオ

(東証1部：1951) <https://www.exeo.co.jp/>

作成者：高見澤晶子

## NTT向け工事が中核の電気通信工事大手

NTTグループを中心とした通信キャリア向けインフラの構築や保守が業務の柱。公共の設備工事を行う都市インフラ事業や、システムソリューションの提供など、企画提案型事業の育成も進める。21.3期の事業別売上高構成比は、NTTグループの通信キャリア39%、NTTグループを除く通信キャリア（以下、NCC）8%、都市インフラ26%、システムソリューション27%。2021～2025年度の中期経営計画では、5Gビジネス、育成分野における新領域の開拓やリカーリングビジネス（継続的にサービスを提供して収益を上げるビジネスモデル）の拡充に取り組み、最終年度に売上高6,300億円、営業利益470億円を目指す。なお、10月1日付で「エクシオグループ」に社名変更予定。



## モバイル工事の増加で利益率が改善

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上高が1,203億円、前年同期比13%増、営業利益が84億円、同101%増。会計基準の変更により売上高で109億円、営業利益で14億円押し上げられたが、それを除いても同3%増収、同67%営業増益と堅調。売上高は豊富な受注残高を背景に施工が順調に進捗、特にNTTおよびNCC向けのモバイル工事の増加が寄与した。受注高においても、NCC向けを中心にモバイル工事の増加が見られた。利益面では、利益率の高いモバイル工事の増加によりセールスマックスが改善、粗利益率が同2.3ポイント上昇した。

22.3期の通期会社計画は、売上高が5,600億円、前期比2%減、営業利益が370億円、同1%増。通信工事は堅調な推移を見込む一方、前期のGIGAスクール関連の反動減により微減収を想定。第1四半期の進捗を踏まえると通信キャリア向け工事の計画がやや保守的な印象であり、上振れ余地がある。また、受注高は5,500億円、同13%減を想定。GIGAスクール関連の反動減に加え、モバイル工事の受注を慎重にみている。ただし、5G基地局の整備が進む中で足元のモバイル工事の受注高は堅調に推移しており、計画を上回る可能性がある。

## 【株価動向・投資判断】

5G環境の整備の進展、育成分野の成長による収益拡大が期待できよう。

<1951 協エクシオ 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	524,574 (▲24)	31,100 (▲2)	30,669 (▲8)	15,603 (▲61)	139.8	80.00
21.3	573,339 (▲9)	36,623 (▲18)	38,186 (▲25)	24,192 (▲55)	217.3	82.00
22.3 予	560,000 (▲2)	37,000 (▲1)	37,800 (▲1)	24,100 (▲0)	217.7	88.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価 (2021/9/16)	2,880 円
年初来高値 (高値日)	3,065 円 (21/4/9)
同 安値 (安値日)	2,655 円 (21/7/9)
予想 P E R (22.3 予)	13.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,603.2 円
P B R	1.11 倍
予想配当利回り	3.06 %
(1株当たり配当金年88.00円)	
R O E (21.3)	8.8 %
発行済み株式数	11,781 万株